

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 12月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3495000048		
法人名	有限会社 ヒサオカ		
事業所名	グループホーム 能美いこいの里		
所在地	広島県江田島市大柿町小古江684番地3 (電話) 0823-57-0040		
自己評価作成日	令和4年11月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3495000048-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年12月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人一人の思いを大切にし集団レクリエーション、個別レクリエーションなどを実施し、その方に合ったコミュニケーションを心掛けています。利用者と関われる時間を少しでも多く持てるように、職員一人一人が意識して日々の仕事に取り組んでいます。毎月、職員が考案した季節行事を開催しています。また、共用型デイサービスも開始しており、外部との交流が深められるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議には小学校の校長、町議会議員、家族代表、行政、地域包括支援センター、自治会副会長、民生委員、お寺の住職など幅広いメンバーの参加により開催している。地域との関係を大切に、共用型デイサービスを開始しておりグループホーム以外の地域の利用者を受け入れている。職員とのコミュニケーションを図る取り組みとして職員に誕生日のプレゼントをしたり、表彰したり工夫している。管理者が看護師であるとともに隣接協力医療機関に元勤務していたこともあり連携が充実している。三食手作りで利用者は調理の音や匂いを感じながら生活できている。職員にベトナム出身の方がおられ、外国人の採用について先駆的な取り組みを行っている。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	施設理念は職員控室に掲示しており、毎夕の申し送り時に全員で唱和し、意味と意義を共有している。	今年から職員で議論をし施設理念を作成し、職員・利用者・家族の笑顔と地域貢献であることを掲げている。利用者の誕生日はもとより職員に誕生日のプレゼントを贈ったり、コロナ禍でも家族とSNS（ライン）で笑顔がつながる工夫をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在、新型コロナウイルス感染予防対策として、地域交流は極力控えており、面会についても短時間・少人数としている段階である。	以前は、小学校や中学生の演奏ボランティア、お寺のコーラスグループの訪問や花まつりの施設での開催、敬老会の弁当の届け物などが行われていた。今はコロナ禍で中止しているが再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	高齢福祉課や地域包括支援センターの職員と連携し、ご家族や地域の方に向けて認知症高齢者の理解と支援方法を伝え、意見交換を行っていた運営推進会議ではあるが、現在、新型コロナウイルス感染予防対策として会議そのものが開催できない状況にある。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の開催は出来ていないが、利用者様の状態や利用状況、行事などの報告は書面により行っている。また、現在取り組んでいるサービスの内容や困難事例等も記載し、報告を行っている。	小学校の校長、町議会議員、家族代表、行政、地域包括支援センター、自治会副会長、民生委員、お寺の住職の参加により開催している。感染に係る情報交換や「いこい通信」や行事、面会の工夫を評価している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度の内容や、事業所が抱えている問題などの相談以外でも、市が推奨する取り組みや、職員のスキルアップ研修等に可能な限り参加するようになっている。	管理者は市が開催する多職種連携会議に参加し、同時に開催している研修会の内容について、必要に応じて職員に伝達講習している。市の担当課とのつながりだけでなく医療機関・介護施設との連携の機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については日中のみ開放。転倒・転落の危険がある階段のみ常時施錠を行っている。また職員に対する身体拘束禁止の周知としては、身体拘束適正化委員会を定期開催し、内容を十分理解したうえで利用者様のケアを行うようにしている。	身体拘束適正化の方針を定めて、3か月に一度身体拘束適正化委員会を開催している。研修は、年2回ミーティングと合わせて実施している。施錠は夜間防犯の為、階段からの転倒防止のために階段降り口に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会の定期開催により虐待防止の内部研修を行っている。その上で、職員一人一人が意識してケアを行い、職員同士が相互に注意し合える関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、職場内で学習機会を設けて、理解や活用が進むように力を入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書と重要事項説明書の説明を行い、利用者様・ご家族の不安や疑問に対しても十分納得して頂けるように説明した上でご承認頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様のご要望には、ご意見を頂いた時にその都度対応している。ご家族様からは面会時や電話連絡によりご要望を頂いている。また、運営推進会議等を通じて外部に発表すると共に、ご要望に沿えるように努めている。	衣類や寝具の交換時期の連絡時や「いこい通信」を送る機会を通じて家族の意見を聴取している。利用者が、ぬり絵をしたり趣味を行ったり畑仕事をすることにつながった事例や面会を窓越しで行う工夫につながったことがある。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は職員の提案や意見に耳を傾けるように努め、全体ミーティングでも意見を聞くようにしている。提案等については職員全員で話し合い、できる限り反映している。	月に1度開催する職員会議には社長が参加し、予め管理者が想定した議題のほか、職員の提案による議題や研修内容を踏まえて実施している。管理者による個人目標面談を通じて意見を聞く機会があり、日常的な意見からホワイトボードや炊飯器、洗濯機を購入したことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各々の職員は役割を持っている。また、各自担当する利用者様のケアプラン原案作成などに関わりながら、自分の意見や提案が反映されることにより意欲的に仕事に取り組むことができている。代表者は自己評価と実績を考慮し、給与等で反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者と管理者は職員一人一人の経験や力量、及び向上心等を把握し、各職員に合った外部研修に参加できるように努めている。また、全体ミーティングでは様々な福祉・医療の勉強会を行いながら、職員全体のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設や医療機関との交流機会があれば、常に意見交換や情報交換を行うことで、お互いが、サービスの質の向上に繋がるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接にて、ご本人やご家族様に聞き取り調査を行い不安なことや困っていることなど、ご要望を十分把握した上でサービス計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。</p>	<p>事前面接時および、ご契約時には、ご家族様のご要望を十分に聞き取り、不安を取り除けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用者様の現在の状況を把握した上で、現在、必要なサービスがどこまで行えているかを説明している。場合によっては他のサービスや医療機関等のご利用が必要になることも説明し、ご理解頂いている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者様に対しては人生の先輩として敬意を表した上で、馴染みの関係になれるように接し、家族のような雰囲気の中で過ごして頂けるように、職員一人一人が意識しながら、関わりを持つようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族参加型の行事を開催するなど、いつでも施設へ足を運んで頂けるような雰囲気作りを行っている。ご家族と職員が一緒となって、利用者様を支えていけるようにご協力をお願いしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの商店や美容院、医療機関を望まれた場合は、ご希望に沿えるように対応してる。また、施設を開放し(現在は中断中)、ご家族だけでなく、友人等にも足を運んで頂いている。</p>	<p>馴染みの関係が続くよう電話の取り次ぎや家族が切手を持って来てくれる方は本人の手書きで手紙の投函などの支援をしている。家族とはSNS(ライン)を使って関係が継続するよう取り組んでいる。今はコロナ禍で馴染みの場所へ連れて行く事は控えているが禍収束後は再開の意向である。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が関りを持てるようにレクリエーション活動等を行っている。施設内での馴染みの関係性もでき、利用者様同士が支え合い、協力している場面も多々見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅に戻られた場合でも担当のケアマネと連携をとり、必要に応じて情報提供等の協力をしている。また、退所が決まった場合でもご希望がある場合には、他の施設や医療機関等と一緒に探す努力をしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から、思いやりやニーズを把握し支援を行っている。意思を伝えることが困難な利用者様であってもご家族様からの情報や日々の状況等を考慮し、安心して過ごして頂けるように支援を行っている。	利用前の自宅訪問時に生活歴や趣味嗜好、生活のリズムや性格等について確認し意向の把握をしている。利用後は、日常的な関わりの中で発言内容や意向を連絡帳に書き留めて職員で共有している。意向の表出が難しい方には筆談や表情により把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接ではご本人やご家族から、これまでの生活歴や生活環境等を伺い、さらに、担当ケアマネや医療機関のスタッフ等からも、在宅時のサービス利用状況や診察状況等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日中および夜間の状態をご利用者様ごとの個人日誌に記録し、職員全員で共有し把握に努めている。必要時には再アセスメントを行い、常に状態の変化やニーズに対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>御本人の意見や、ご家族の希望や意見の他、医療機関の関係者から得た情報を分析し、計画作成担当者と担当職員とで何度も話し合いを行い、過不足のないサービス計画を作成するように努めている。</p>	<p>個人日誌を通じて職員は利用者の状況とケア内容について共有している。モニタリングは、毎月担当職員が中心となって評価し、半年ごとに介護支援専門員が月2回の往診医の助言を踏まえてケアプランの見直し検討を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日24時間タイムスケジュール形式で経過記録を残している。状態の変化がある方は日勤日誌や夜勤日誌にも転記することで、職員全員による情報共有および心身の状態把握に努め、サービス計画の作成やモニタリングを行う際にも活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの状況の変化に応じて、柔軟な対応ができるように努めている。ただ、その際は必ず利用者様やご家族様に相談し、ニーズやご意見を伺うようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>医療機関・ボランティア・馴染みの商店など、その方が生活していく上で全て生活資源と捉え、継続して関わることが出来るように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者様の大半は施設に隣接した協力医を主治医とされているが、ご希望により馴染みの医療機関を継続されている方もおられる。主治医からの専門医受診の勧めには御家族様との協力体制をとりながら通院介助を行っている。医療機関には必要に応じ情報提供を行うなど適切な医療が受けられるよう、日頃より連携を図っている。</p>	<p>家族の希望により主治医の継続は可能である。近隣にある協力医療機関以外の場合や専門医の受診の場合は家族による送迎となる。協力医療機関からの往診は月に2回、歯科は月に1回と臨時の往診で対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化や疾病の悪化が見られた時には看護職員に報告し、必要であれば受診の手続きをとっている。看護職員不在時でも電話連絡により、状態の報告・相談及び指示を受けることができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医や看護師、相談員と連携を取り、現在の状態や入院期間などを常に把握している。また、退院できる見通しができた時点で、帰所後も不安なく生活が送れるように、職員全員でケア方法の話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療施設と同等の対応は難しいことは契約時にご説明している。その上で看取りをご希望された場合には、主治医と相談の上、できる限りの対応を行っている。その際には主治医からご家族様に、現在の状態と今後予測される変化、また、医療が行える限界などの説明をして頂いている。	重度化した場合における対応に係る指針について利用前に説明をしている。医師・家族・グループホームの看取りの条件が揃った場合は、看取りの同意書と看取りの介護計画を家族と確認している。3年前に看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に対処するマニュアルを作成し、職員全員に周知している。また、全体ミーティングでも看護職員を中心に応急処置法や対処法の勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、年2回避難訓練を行っている。また、協力医療機関や近隣の方にも災害発生時の連絡網を配布し、協力体制を築いている。	土砂災害警戒地域に建物の一部が掛っている。避難訓練は年に2回、昼夜を想定して行っている。長期の断水経験があり、大型ポリタンクや紙皿、紙容器、ラップなどを揃えている。職員の連絡網の整備や近隣の協力医療機関との連携について確認している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりを尊重し、受容・共感・傾聴の姿勢を大切にしている。人生の先輩として敬意を表し、プライドやプライバシーを損ねない声かけと対応を心掛けている。接遇マナーについては職員同士が互いにアドバイスをし、ミーティングでも定期的に研修会を行っている。	尊厳とプライバシーの確保について接遇マナーの研修を実施している。トイレ使用時の扉、入浴準備の為の居室から浴室までの移動する間の衣服について羞恥心に配慮するよう指導している。個人情報については、利用者とは契約時に職員とは雇用契約時に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	御本人様の意見は勿論、意思表示がうまく表せない利用者様であっても、分かりやすい選択肢を用意するなどしてできるだけ自己決定をして頂けるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりの性格や生活習慣を尊重し、できるだけ御本人様のペースに合わせた支援と個別対応に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日着る衣服を選んで頂くことや、毛染めやパーマをご希望された方には美容院に行けるように支援している。また、お化粧をされる利用者様にも、使いなれた化粧品をご使用していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な調理や味見、盛り付けから、食後の後片づけまで、利用者様の個々の能力に応じたことを手伝って頂いている。事業所の畑にできた野菜を一緒に収穫し、食材に利用する等、楽しく食事ができる雰囲気作りを常に心がけている。	三食手作りで行っており、鶏肉の場合は柔らかくするために湯がいて照り焼きにしたり、焼魚より煮魚にしたり調理に工夫をしている。利用者にも出来るところで協力してもらっている。畑で採れた茄子、胡瓜、いもやイチジク、柿、ブルーベリーなどを調理し、提供している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>外注している食材でカロリー計算されているが、塩分や糖分、脂質には気を付けながら、味が損なわれないようにも心がけている。また、一人ひとりの状態に合わせて、普通食・粥・刻み・トロミなどの工夫を行い、摂取量は毎食管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後には口腔ケアを行い、自力ケアが困難な方には介助を行っている。口腔内の疾患がある方には、歯科医に往診での治療をして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表にて管理し、状態把握を行っている。訴えない方でも、声かけとトイレ誘導を行い、気持ち良く過ごして頂けるように支援している。介助の際でもできるだけ残存機能を活かして頂き、難しい部分に関しては介助を行うようにしている。</p>	<p>毎日の排泄チェック表と月度のまとめを見て排泄パターンを把握してトイレでの排泄につながるよう対応している。夜間はポータブルトイレを使う利用者もいる。紙おむつから昼はパッドとリハビリパンツに変更した利用者もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>チェック表にて管理し、排便状況の把握を行っている。出来るだけ自然排便を促すため、適度な運動とバランスの良い食事、水分量の確保を支援している。排便が見られない場合は、看護職員に報告、医師に相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週2回実施。また、1・2階共に午前浴を行っている。利用者様の体調・希望に応じて好みの時間の入浴も実施している。また、その方の好みに応じた湯温調整を実施し、冬至にはゆず湯を楽しんで頂き入浴でも季節を感じて頂けるように工夫している。</p>	<p>午前浴、週2回入浴を基本としている。拒否のある方には、順番を変えたり、職員との相性に配慮したり、清拭にするなどし、工夫している。入浴剤は皮膚の荒れを考慮して使用していないが、ゆず湯は冬至時期に季節を感じられるように使っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>利用者様それぞれで休まれる時 間が異なっており、訴えに合わ せた就寝介助を行っている。夜 間はトイレ誘導や、パット交換 、希望時の水分補給などを行 い巡回と様子観察にて、安心 して気持ちよく休んで頂ける ように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>処方されている薬の内容や用法、 効能が把握できるように一覧し ている。症状の変化については 経過記録に残し、看護職員を 通じて主治医に報告している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>利用者様には、それぞれ施設内 での役割を持っていただき、生 活意欲の向上に繋がるように 支援している。また、個別で行 うレクリエーションや趣味など の活動が楽しく続けられるよ うに支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日には、職員が付き 添い散歩に出かけることもある 。季節の花や海を見て喜ばれ る利用者様も多く、良い気分 転換となっている。その他ド ライブや買い物支援で外出を される事もあり(現在は中断 中)、ご家族の協力等で外食 や外泊をされることもある。</p>	<p>コロナ禍で、敷地内の散歩が 中心となっている。地域のマ ラソン大会では、沿道に応援 に行き走っている人から手を 振ってもらったり一緒に写真 に写ったりしている。コロナ 以前は、お盆や年末年始の外 泊や商店への買物、ドライブ に出かけていた。収束後は再 開の意向である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。</p>	<p>トラブル防止の為、原則、金 銭管理はご家族様にお願いし ている。また、買い物や通院 等における支払いは施設が立 て替えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話は施設のものを使用して頂いている。利用者様の中には携帯電話を使用されている方もおられる。届いた手紙は御本人に直接渡している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>フロアは温度・湿度計を見ながら利用者様が過ごしやすい室温・湿度調整を行い、健康管理に努めている。壁面には季節を感じて頂ける装飾や、行事での写真などを飾り、室内でも季節を感じて頂けるように工夫し、楽しい雰囲気作りにも努めている。</p>	<p>共用部の玄関、廊下、食堂、トイレ等十分な広さがあり、ゆったりとした空間となっている。台所での調理の音や匂いが食堂につながる配置となっている。壁面や食堂には季節を感じる飾り付けクリスマスツリーや天井からの装飾がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有スペースの一角にソファを設置しており、テレビ鑑賞される方や、談話を楽しまれる方など、それぞれが自由に過ごされている。利用者様は居室と共有スペースを自由に行き来され、仲の良い利用者様同士がお互いの居室を訪れ、過ごされていることもある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族には、使い慣れたものや思い出のあるものを持ち込んで頂くようお願いしている。出来るだけ住み慣れた場所に近い空間を作り、安心して過ごして頂けるように支援している。</p>	<p>基準の1.6倍位の広さがあり居室でゆったりできる。備え付けはベッドとエアコン、カーテンである。家族と利用者が室内の配置を行っている。テレビやテレビ台、テーブル、椅子、鏡台、仏壇、家族写真など馴染みのものが持ち込まれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下やトイレ、浴室には手すりを設置してあり、利用者様が生活しやすい環境にしている。自立を促すためにも過剰な介護は控え、出来ていることが今後も継続して行えるように見守りや声かけによる支援を行っている。</p>		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	施設理念は職員控室に掲示しており、毎夕の申し送り時に全員で唱和し、意味と意義を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在、新型コロナウイルス感染予防対策として、地域交流は極力控えており、面会についても短時間・少人数としている段階である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	高齢福祉課や地域包括支援センターの職員と連携し、ご家族や地域の方に向けて認知症高齢者の理解と支援方法を伝え、意見交換を行っていた運営推進会議ではあるが、現在、新型コロナウイルス感染予防対策として会議そのものが開催できない状況にある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の開催は出来ていないが、利用者様の状態や利用状況、行事などの報告は書面により行っている。また、現在取り組んでいるサービスの内容や困難事例等も記載し、報告を行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度の内容や、事業所が抱えている問題などの相談以外でも、市が推奨する取り組みや、職員のスキルアップ研修等に可能な限り参加するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については日中のみ開放。転倒・転落の危険がある階段のみ常時施錠を行っている。また職員に対する身体拘束禁止の周知としては、身体拘束適正委員会を定期開催し、内容を十分理解したうえで利用者様のケアを行うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会の定期開催により虐待防止の内部研修を行っている。その上で、職員一人一人が意識してケアを行い、職員同士が相互に注意し合える関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、職場内で学習機会を設けて、理解や活用が進むように力を入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書と重要事項説明書の説明を行い、利用者様・ご家族の不安や疑問に対しても十分納得して頂けるように説明した上でご承認頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様のご要望には、ご意見を頂いた時にその都度対応している。ご家族様からは面会時や電話連絡によりご要望を頂いている。また、運営推進会議等を通じて外部に発表すると共に、ご要望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は職員の提案や意見に耳を傾けるように努め、全体ミーティングでも意見を聞くようにしている。提案等については職員全員で話し合い、できる限り反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各々の職員は役割を持っている。また、各自担当する利用者様のケアプラン原案作成などに関わりながら、自分の意見や提案が反映されることにより意欲的に仕事に取り組むことができている。代表者は自己評価と実績を考慮し、給与等で反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者と管理者は職員一人一人の経験や力量、及び向上心等を把握し、各職員に合った外部研修に参加できるように努めている。また、全体ミーティングでは様々な福祉・医療の勉強会を行いながら、職員全体のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設や医療機関との交流機会があれば、常に意見交換や情報交換を行うことで、お互いが、サービスの質の向上に繋がるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接にて、ご本人やご家族様に聞き取り調査を行い不安なことや困っていることなど、ご要望を十分把握した上でサービス計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。</p>	<p>事前面接時および、ご契約時には、ご家族様のご要望を十分に聞き取り、不安を取り除けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご利用者様の現在の状況を把握した上で、現在、必要なサービスがどこまで行えているかを説明している。場合によっては他のサービスや医療機関等のご利用が必要になることも説明し、ご理解頂いている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者様に対しては人生の先輩として敬意を表した上で、馴染みの関係になれるように接し、家族のような雰囲気の中で過ごして頂けるように、職員一人一人が意識しながら、関わりを持つようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族参加型の行事を開催するなど、いつでも施設へ足を運んで頂けるような雰囲気作りを行っている。ご家族と職員が一緒となって、利用者様を支えていけるようにご協力をお願いしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの商店や美容院、医療機関を望まれた場合は、ご希望に沿えるように対応してる。また、施設を開放し(現在は中断中)、ご家族だけでなく、友人等にも足を運んで頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が関りを持てるようにレクリエーション活動等を行っている。施設内での馴染みの関係性もでき、利用者様同士が支え合い、協力している場面も多々見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅に戻られた場合でも担当のケアマネと連携をとり、必要に応じて情報提供する等の協力をしている。また、退所が決まった場合でもご希望がある場合には、他の施設や医療機関等と一緒に探す努力をしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中から、思いやりやニーズを把握し支援を行っている。意思を伝えることが困難な利用者様であってもご家族様からの情報や日々の状況等を考慮し、安心して過ごして頂けるように支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接ではご本人やご家族から、これまでの生活歴や生活環境等を伺い、さらに、担当ケアマネや医療機関のスタッフ等からも、在宅時のサービス利用状況や診察状況等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日中および夜間の状態をご利用者様ごとの個人日誌に記録し、職員全員で共有し把握に努めている。必要時には再アセスメントを行い、常に状態の変化やニーズに対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	御本人の意見や、ご家族の希望や意見の他、医療機関の関係者から得た情報を分析し、計画作成担当者と担当職員とで何度も話し合いを行い、過不足のないサービス計画を作成するように努めている。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	毎日24時間タイムスケジュール形式で経過記録を残している。特変者は日勤日誌や夜勤日誌にも転記することで、職員全員による情報共有および心身の状態把握に努め、サービス計画の作成やモニタリングを行う際にも活用している。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	一人ひとりの状況の変化に応じて、柔軟な対応ができるように努めている。ただ、その際は必ず利用者様やご家族様に相談し、ニーズやご意見を伺うようにしている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	医療機関・ボランティア・馴染みの商店など、その方が生活していく上で全て生活資源と捉え、継続して関わることが出来るように支援している。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	利用者様の大半は施設に隣接した協力医を主治医とされているが、ご希望により馴染みの医療機関を継続されている方もおられる。主治医からの専門医受診の勧めには御家族様との協力体制をとりながら通院介助を行っている。医療機関には必要に応じ情報提供を行うなど適切な医療を受けられるよう、日頃より連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化や疾病の悪化が見られた時には看護職員に報告し、必要であれば受診の手続きをとっている。看護職員不在時でも電話連絡により、状態の報告・相談及び指示を受けることができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医や看護師、相談員と連携を取り、現在の状態や入院期間などを常に把握している。また、退院できる見通しができた時点で、帰所後も不安なく生活が送れるように、職員全員でケア方法の話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療施設と同等の対応は難しいことは契約時にご説明している。その上で看取りをご希望された場合には、主治医と相談の上、できる限りの対応を行っている。その際には主治医からご家族様に、現在の状態と今後予測される変化、また、医療が行える限界などの説明をして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に対処するマニュアルを作成し、職員全員に周知している。また、全体ミーティングでも看護職員を中心に応急処置法や対処法の勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、年2回避難訓練を行っている。また、協力医療機関や近隣の方にも災害発生時の連絡網を配布し、協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりを尊重し、受容・共感・傾聴の姿勢を大切にしている。人生の先輩として敬意を表し、プライドやプライバシーを損ねない声かけと対応を心掛けている。接遇マナーについては職員同士が互いにアドバイスをを行い、ミーティングでも定期的に研修会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	御本人様の意見は勿論、意思表示がうまく表せない利用者様であっても、分かりやすい選択肢を用意するなどしてできるだけ自己決定をして頂けるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりの性格や生活習慣を尊重し、できるだけ御本人様のペースに合わせた支援と個別対応に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日着る衣服を選んで頂くことや、毛染めやパーマをご希望された方には美容院に行けるように支援している。また、お化粧をされる利用者様にも、使いなれた化粧品をご使用していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な調理や味見、盛り付けから、食後の後片づけまで、利用者様の個々の能力に応じたことを手伝って頂いている。事業所の畑に成った野菜をご一緒に収穫し、食材に利用する等、楽しく食事ができる雰囲気作りを常に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>外注している食材でカロリー計算されているが、塩分や糖分、脂質には気を付けながら、味が損なわれないようにも心がけている。また、一人ひとりの状態に合わせて、普通食・粥・刻み・トロミなどの工夫を行い、摂取量は毎食管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後には口腔ケアを行い、自力ケアが困難な方には介助を行っている。口腔内の疾患がある方には、歯科医に往診での治療をして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表にて管理し、状態把握を行っている。訴えのない方でも、声かけとトイレ誘導を行い、気持ち良く過ごして頂けるように支援している。介助の際でもできるだけ残存機能を活かして頂き、難しい部分に関しては介助を行うようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>チェック表にて管理し、排便状況の把握を行っている。出来るだけ自然排便を促すため、適度な運動とバランスの良い食事、水分量の確保を支援している。排便が見られない場合は、看護職員に報告、医師に相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週2回実施。また、1・2階共に午前浴を行っている。利用者様の体調・希望に応じて好みの時間の入浴も実施している。また、その方の好みに応じた湯温調整を実施し、冬至にはゆず湯を楽しんで頂き入浴でも季節を感じて頂けるように工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様それぞれで休まれる時間が異なっており、訴えに合わせた就寝介助を行っている。夜間はトイレ誘導や、パット交換、希望時の水分補給などを行い巡回と様子観察にて、安心して気持ちよく休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されている薬の内容や用法、効能が把握できるように一覧している。症状の変化については経過記録に残し、看護職員を通じて主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様には、それぞれ施設内での役割を持っていただき、生活意欲の向上に繋がるように支援している。また、個別で行うレクリエーションや趣味などの活動が楽しく続けられるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には、職員が付き添い散歩に出かけることもある。季節花や海を見て喜ばれる利用者様も多く、良い気分転換となっている。その他ドライブや買い物支援で外出をされる事もあり（現在は中断中）、ご家族の協力等で外食や外泊をされることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル防止の為、原則、金銭管理はご家族様をお願いしている。また、買い物や通院等における支払いは施設が立て替えている。		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は施設のものを使用して頂いている。利用者様の中には携帯電話を使用されている方もおられる。届いた手紙は御本人に直接渡している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアは温度・湿度計を見ながら利用者様が過ごしやすい室温・湿度調整を行い、健康管理に努めている。壁面には季節を感じて頂ける装飾や、行事での写真などを飾り、室内でも季節を感じて頂けるように工夫し、楽しい雰囲気作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースの一角にソファを設置しており、テレビ鑑賞される方や、談話を楽しまれる方など、それぞれが自由に過ごされている。利用者様は居室と共有スペースを自由に行き来され、仲の良い利用者様同士がお互いの居室を訪れ、過ごされていることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族には、使い慣れたものや思い出のあるものを持ち込んで頂くようお願いしている。出来るだけ住み慣れた場所に近い空間を作り、安心して過ごして頂けるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置しており、利用者様が生活しやすい環境にしている。自立を促すためにも過剰な介護は控え、出来ていることが今後も継続して行えるように見守りや声かけによる支援を行っている。		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム能美いこいの里

作成日 令和5年1月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践。	職員一人一人が身体拘束廃止についての知識向上と意見交換する場を設け、適切な介護方法を身につける。	身体拘束をしない介護について職員が現在どこまで理解しているか確認できるよう定期的に研修会を開催する。	12ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援。	重度化や見取りに関する内容を、職員間で共有できるように努め、尊厳に配慮した終末期ケアを行っていく。	外国人スタッフや介護経験の浅い職員もいるので施設内研修を実施し、重度化や看取りに関する学習を通して、より理解を深める。	12ヶ月
3	35	災害対策。	地域住民の方たちに協力して頂ける関係作りを行っていく。	運営推進会議等で、近隣住民との交流が図れるように努める。	12ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。